

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校が受け継いできた『やさしさ かしこさ たくましさ を育てる』という教育目標を実現するために

- 1) 自立心・組織力・企画力を養う自主活動を支援する
- 2) 「普通科高校」ならではの幅広い教養と、基礎基本の学力を身に付けさせる
- 3) 「交流」をキーワードに、校外の世界との交流を進める

以上を柱立てとする教育実践を通して、夢と志につながる進路実現を図りつつ、地域の人には「愛され、認められる学校づくり」を、生徒・保護者には「入学してよかったと思える学校づくり」をめざす。

2 中期的目標

1 自主性・社会性を養う生徒会活動・部活動の充実

(1) 生徒会活動・部活動を通して生徒の達成感、充実感を体感することにより、やればできるという自信を育てる。

- ア 体育的行事において、生徒会部を中心に三年学年団による生徒のリーダー育成、縦割り組織による企画・組織運営に取り組みさせる。
- イ 文化的行事において、企画力、協力する態度、責任感を養う。
- ウ 部活動の活性化により、学校生活をより充実したものにする。

※ 生徒向け学校教育自己診断による生徒会行事、部活動に対する生徒満足度、平成 25 年度における満足度 文化祭 79% 体育祭 84% 修学旅行 84% 生徒会活動 66% 部活動 62%を平成 28 年度には、すべて 80%以上にする。

2 確かな学力の育成と生徒個々の進路実現

(1) 教員の指導力の向上を図る

- ア 研究授業を充実し、研修を進める。
- イ 教科毎の授業工夫改善を継続し、進路実現のための補習・講習を充実させる。
- ウ 教員向けの各種アプリケーション研修を行い、授業における ICT 活用を進める。

※ 生徒向け学校教育自己診断による授業満足度平成 25 年度は、選択教科 82% わかりやすく楽しい 55.6% 自分の考えをまとめる、発表する機会がある 44.2% 教え方を工夫している 59.1% 質問しやすい 59% を、平成 28 年度には、すべてを 80%以上にする。

(2) 3 学年を見通した進路指導計画・課外講習を再点検し、進路実績の向上を図る

- ア 1 年次からの分野別説明会、大学見学会等、進路選択の学年行事を進路指導部が総括して計画実施する。
- イ 低学年からの進学講習（専門学校・公務員・就職対策を含む）を実施することで基礎学力を定着させ、学習習慣を確立させる。
- ウ 進路決定までの学年進行に合わせて、基礎学力調査における判定を各々 1 ランク向上することを目標とさせて進路指導する。
- エ 自学自習の力を伸ばさせ、難関大学の進学実績の向上をめざす

※ 3 年生秋実施の基礎学力調査・学習到達度 B ゾーン以上（25 年度 33.7%）の生徒の割合を平成 28 年度には 40% にする。

※ 国公立・難関私立大学の合格者平成 25 年度 17 人(内浪人 11 人中 1 は、公立大学)を平成 28 年度には 30 人以上に、それに準じる有名私立大学合格者平成 25 年度 50 人(内浪人 9 人)を平成 28 年度には、80 人以上にする。

3 幅広い交流体験の推進

(1) 障がいがある人との交流活動を通して、自分だけでなく他の人も大切にす本当の“やさしさ”を育む

- ア 藤井寺支援学校との交流活動を継承・発展させる

(2) さまざまな人との幅広い交流体験活動の推進

- ア これまでの地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加等）の継続と、地元小・中学校や幼・保育園との連携活動の可能性を探る。
- イ 適切な情報提供と時期・内容の精選により、生徒の高大連携への関心を高める。
- ウ PTA、同窓会の協力の下、海外語学研修の定例化を図りつつ、藤井寺市海外交流委員会と連携し、短期留学生の受け入れを継続する。
- エ 社会で活躍中の先輩や諸分野のゲストを招き、生徒が自らの生き方を考える機会を増やす。

※ 生徒向け学校教育自己診断で、平成 25 年度は、人権について学ぶ機会がある 66.4% 環境、海外交流、ボランティアについて学習する機会がある 52.6% 授業や部活動などで、保護者や地域の人々と関わる機会がある 44.3% 支援学校の生徒と交流する機会がある 70.5%を、平成 28 年度はすべて 80%以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○生徒向けのアンケートで昨年度と比べて下降しているのは 1「学校へ行くのが楽しい」5「選択教科の時間は工夫されていて、自分の学ぶべきことがらを選べる」26「修学旅行は楽しく行えるよう工夫されている」38「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか、知らされている」の 4 つのみであった。1、26、38 はマイナスのポイントも小さく肯定度も高いので特に問題とはならないだろう。また 5 は答えにくい質問ではないかと思われる。1・2 学年では選択教科の数が元々少ないし、3 学年になれば進路によって選択すべき教科は限られてくるので、どの学年でもポイントが低くなってしまいうのでは無いだろうか。</p> <p>一方ポイントが上昇している質問は多く、9「先生は教え方を工夫している」18「学校生活についての先生の指導は適切である」28「本校の部</p>	<p>第 1 回(6/25)</p> <p>○平成 25 年度学校経営計画に基づく取り組み状況及び自己評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤井寺支援学校との交流は、地域でも話題に上がっている。今後も継続してほしい。 ・中学校側から、「藤高杯」は非常にありがたい。今後の継続発展と、早めの日程・内容の提示を。 ・進路行事については、生徒の満足度も 81.1%と高く、良い。 ・頭髪指導対象者の増加に対しての指導については、実数を挙げた方がよい。(平成 25 年度 1 年 64 人、2 年 62 人、3 年 36 人計 162 人、平成 26 年度 1 年 16 人、2 年 25 人、3 年 17 人計 58 人であった) ・全体としては、取り組みが十分出来たが多く、努力している。取り組みが不十分であった部分の原因分析をより詳しく行うべき。 <p>○平成 26 年度学校経営計画について</p>

府立藤井寺高等学校

活動は活発である」33「環境、国際理解や傷がいのある人との接し方等について学習する機会がある」34「校長先生の話はわかりやすく自分達の事を考えた内容になっている」40「授業で特別教室を利用することがある」等の質問では著しい上昇が見られる。肯定度のもっとも低い50「学校のホームページをよく見る」も、本校ではメールマガジンでの連絡が主流である事がその理由だろう。

- 保護者向けのアンケートでは、10「通知表は、子どもの学力や達成度をわかりやすく表すように工夫されている」20「学校は、進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」25「学校は子どもに生命を大切にす心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」31「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」35「学校は、防災や防犯、事故防止に配慮し、施設・設備の点検を行っている」39「学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である」43「PTA活動に参加することがある」等は肯定度は、高い。
- 一方下降した質問では7「学校は保護者の願いに答えている」26「子供は学校に友達がいるといっている」36「学校は、保護者や地域の人々が授業を参観する機会を設けている」42「学校は、保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を設けている」44「学校は、生徒が幼稚園・保育園や他の学校と交流する機会を設けている」等が大きな下降となっているが、36や42では「保護者や地域の人々が」となっている為、地域の人までは判らないのでポイントが下がった様だ。また44では、他の学校の中に支援学校とが含まれている事に気付かなかった事も考えられる。これらは学校からの質問の仕方を工夫する必要性を示している。7と42に関しては真摯に受け止め「学校協議会」の活動について、周知に努めなくてはならない。

- ・学校自己診断アンケートで「ボランティア活動が活発である」の項目で生徒の回答が低いとのことだが、説明を加えれば結果も変わってくる。
 - ・生徒の保護者からは、「真面目な学校」という声が多く、また藤井寺支援学校との交流は、地域に好印象を与えている。
- 進路指導について
- ・3年間を通した計画を提示することで効果が上がると思う。指定校推薦を除いた進学の向上をめざしてほしい。
- 生徒指導について
- ・自転車マナーの悪い生徒がいる。もっと指導してほしい。
(第2回協議会で、外部団体による自転車指導を行った報告のところで、自転車マナーは随分よくなったとの、ご意見をいただいた。)
- 第2回(11/27)
- 学校説明会配付資料について
- ・学校のパンフレットが、カラフルになり見やすくなった。
 - ・生徒が、ポスターを制作し学校の取り組みに参加するのはとても良い。
- 施設の整備状況について
- ・体育館の床の波打ち、経年の劣化による廊下の床シート破損箇所、テニスコートの柵の倒壊の恐れについては、生徒に危険が及ぶので、修復が必要。
- 学校説明会、広報活動について
- ・中学校もクラブ活動があるので、説明会は夏以降が有効。
塾は、学校説明会で情報を得る。藤井寺高校の説明会は、教師と生徒が一体となっていて好印象。中学1・2年生の生徒と保護者への対応も考える必要がある。
 - ・現PTA役員からの、説明があってもいいのでは。
 - ・興味を持てる説明会である。
 - ・藤井寺高校の受験を考えている生徒は、私学との間で迷っていることが多い。保護者は、進学実績で選ぶことが多い。
 - ・藤井寺高校は、多くの情報を提供している。出前授業も進路をきっかけとする、よい時期に行われている。
- 海外交流について
- ・藤井寺高校単独で、海外研修を実施できるのはとても良いこと。
海外研修に行きたいから、藤井寺高校を受験したいという中学生もいる。
二年生になると部活動が主になることが多いので、高校一年で経験させたい。
- 第3回(3/5)
- 「学校経営計画及び学校評価」について
- ・授業におけるICT活用を進める。(平成29年度にはすべて70%以上にする)
- 「学校教育自己診断」アンケート結果について
- 「PTA活動参加：64.3ポイント上がっている」
- 本校には、藤高を希望する生徒が非常に多い。藤井寺高校は勉強・クラブともに学校で取り組んでいるという印象で、生徒たちは進路に希望が持てるという思いで特に大学に進学するのを目標にする生徒が多い。予備校に行く生徒が多数いるという状況の中、学内でしっかりとした進路保障をすることが学校として大切である。家庭の状況にかかわらず、学校で頑張ればしっかり進学できる学校であってほしい。」
- 平成27年度前期入学者選抜の概況について
- ・学区が撤廃されたが、志願者のエリアは変わっていない。
- 平成26年度 教育活動・取組報告等(各分掌・学年より)
- ①進路指導部
- ・進路実績は、昨年度に比べて上回っている。
 - ・中間層がやはり引き上げられなかった。
⇒1年生から、学習習慣をつけさせるのが課題。
- ②総務部
- ・中学生の関心：授業への関心。⇒来年度は実際の授業参観と模擬授業
- 藤高の生徒が、袋を持ってゴミを拾うという活動が非常に高評価だった。
- ③生徒指導部
- ・外部の団体による交通安全指導を実施。
- ④生徒会部
- ・写真部、昇格の報告。
- ⑤保健部
- ・文化祭で「食育キャンペーン」をテーマに展示企画を行っている。(ビデオ作成)
- ⑥交流ボランティア委員会
- ・来年度も北小学校、藤井寺支援学校、藤井寺高校の3校の交流を検討する。
- ⑦各学年の年間の状況報告
- (第3学年)
- ・成績上位の生徒たちが、特に一生懸命勉強した。
- (第2学年)
- ・初の海外研修旅行。学校交流が大きな目玉となった。
- 提言
- ・男性のPTA活動への参加を求める必要がある。
 - ・若い頃に異文化に接することはとても良いこと。

府立藤井寺高等学校

- ・進学実績はとても良い。朝の講習などの効果がとても感じられるので続けてほしい。
- ・進路保障については、目標をさらに高くして頑張ってもらいたいと思う。希望の進路に導くことが、生徒たちの大きな自信につながるはずだ。
- ・保護者にとっては「安心」、子どもたちにとっては「面白い、楽しい」といういろいろなことを経験させる場を与える。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自主性・社会性を養う生徒会活動・部活動の充実	(1) 生徒会活動・部活動を通して生徒の達成感、充実感を体感することにより、やればできるという自信を育てる ア 体育的行事において、縦割り組織による企画・組織運営に取り組みさせる イ 文化的行事において、企画力、協力する態度、責任感を養う ウ 部活動の活性化により、学校生活をより充実したものにする。	ア・生徒会部を中心に三年学年団による生徒のリーダー集団の育成、そのリーダー集団を中心に、企画から下級生をまとめた組織運営に取り組みさせる イ・クラス単位での企画、運営において、クラスの協力体制や責任感を育てる ウ・自分たちで主体的に部活動に取り組むことでやりがいや達成感を味わわせる。 エ・生徒会活動を執行部のみが突出した活動にせず、全校生徒の所属意識を高める。 オ・修学旅行実施の企画、運営に、生徒を主体的にかかわらせることで意欲関心を高め、自分たちの行事として、経験させる	生徒向け学校教育自己診断による生徒会行事、部活動に対する生徒満足度、 ア 体育祭 80%以上の維持 イ 文化祭 80%以上 ウ 部活動 65% エ 生徒会活動 70% オ 修学旅行 80%の維持をめざす。	生徒向け学校教育自己診断による生徒会行事、部活動に対する生徒満足度は、以下の通りである。 ア 体育祭 82.2%(○) イ 文化祭 81.7%(○) ウ 部活動 79.2%(◎) エ 生徒会活動 64.0%(△) オ 修学旅行 82.4%(○)
2 確かな学力の育成と生徒個々の進路実現	(1) 教員の指導力の向上を図る (2) 3学年を見通した進路指導計画・課外講習を再点検し、進路実績の向上を図る	ア・研究授業の充実と、授業アンケート結果を活用することで、研修を進める。 イ・ICT活用を進める。 ア・分野別説明会、大学見学会等、進路選択の学年行事を進路指導部が総括して計画実施する。 イ・低学年からの進路講習を定着させ、学習習慣を確立させる。 ウ・進路決定までの学年進行に合わせて、基礎学力調査判定を向上させる。 エ・自学自習の力を伸ばさせ、難関大学の進学実績の向上をめざす	ア 生徒向け学校教育自己診断による授業満足度で 選択教科の工夫 82% の維持 わかりやすく楽しい 55.6%を60% 自分の考えをまとめる、発表する機会がある 44.2%を50% 教え方を工夫している 59.1%を65% 質問しやすい 59%を65%に、それぞれ、向上をめざす。 ア 各取り組みに対する満足度 80%以上をめざす。 イウ 3年生秋実施の基礎学力調査・学習到達度Bゾーン以上(25年度33.7%)の生徒の割合を平成26年度には35%にする。 エ 国公立・難関私立大学の現役合格者 平成25年度6人を平成26年度には10人以上にする。	ア 生徒向け学校教育自己診断による授業満足度で 選択教科の工夫 64.8%(△) わかりやすく楽しい 55.4%(△) 自分の考えをまとめる、発表する機会がある 49.9%(○) 教え方を工夫している 71.7%(◎) 質問しやすい 62.2%(△)であった。 ア 90%の生徒が、進路意識の向上を示す評価をした。(◎) イ 一年生で、3講座、27名が講習に参加した。(△) 二年生で、7講座、200名が講習に参加した。(◎) ウ 二年生の、国語、数学で成果を上げたが他では、目標を達成できなかった。(△) エ H27.3月現在14名(◎)

府立藤井寺高等学校

<p>3 幅広い交流体験の推進</p>	<p>(1) 障がいがある人との交流活動を通して、自分だけでなく他の人も大切にす 本当の“やさしさ”を育む</p> <p>(2) さまざまな人との幅広い交流体験活動の推進</p>	<p>ア・藤井寺支援学校との交流活動を継承・発展させる</p> <p>ア・地域活動の継続と、地元小・中学校との連携による新企画に取り組む</p> <p>イ・時期・内容・地域を精選し、高大連携を推進する。 ウ・短期留学生の受け入れ継続と、語学研修の定例化。 エ・先輩や諸分野のゲストを招き、生徒自らの生き方を考える機会を増やす。</p>	<p>生徒向け学校教育自己診断で、平成25年度の、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援学校と交流する機会がある 70.5% ・人権について学ぶ機会がある 66.4% ・環境、海外交流、ボランティアについて学習する機会がある 52.6% <p>を、平成26年度はすべて70%以上をめざす。</p> <p>ア 授業や部活動などで、保護者や地域の人々に関わる機会がある 44.3% を平成26年度では、50%をめざす。</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援学校と交流する機会がある 72.3%(○) ・人権について学ぶ機会がある 65.1%(△) ・環境、海外交流、ボランティアについて学習する機会がある 73.6%(○)であった。 <p>(2)ア 地元小・中学校の行事に吹奏楽部が参加。 本校体育祭に地元小学6年生全員を招いて食堂体験および応援合戦と競技の見学。文化祭に小学5年生全員を招いて、舞台・教室の発表を参観。(◎)</p> <p>授業や部活動などで、保護者や地域の人々に関わる機会がある 50.2%(○)であった。</p> <p>イ 四天王寺大学との連携には、16名が体験授業に参加した。(○)</p> <p>ウ ニュージーランド、パプアニューギニア高校の生徒受け入れ、及び希望者のオーストラリア語学研修共に実施。 国際交流の、気運が根付いてきた。 ・成果は、2年生の研修旅行で生徒の非常に積極的な交流活動で、発揮された。(◎) 交流校の中正高級中学校とは、平成27年度5月に訪日の際、訪問交流の依頼を受ける。</p> <p>エ 公務員、看護医療分野で卒業生による講演を実施。(○)</p>
-------------------------	---	---	--	---